

地元で30年以上続けているバレーの仲間たちと。仲間とのつながりも人生の楽しさの一つだ。



Public relations  
OZU TOWN

広報 おおづ 2010 8

発行・編集 ■大津町・企画課  
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096 (293) 3111

ホームページURL  
http://www.town.ozu.kumamoto.jp/

印刷 ■オーブ印刷株式会社  
※この広報誌は郵便に配達して再生紙及び大豆インクを使っています。

大津のことがもっと好きになる情報誌

# 広報 おおづ

文化ホールで公演された「やまとなでしこ番外編」。町在住の木内里美さんが創る演劇の世界を町民が体験しました。多くの人が笑いながら人生というものを見つめ直すことができる—そんな演劇でした。詳しくは13ページ。



8  
AUGUST 2010

消防操法大会	2
えんぴつ一本でできるまちづくりへの参加	
特集 国勢調査	3
第22回参議院議員通常選挙結果	12

## 子どもや孫のために 調査員をやっているような ものです

### 三浦かつ代さん (真木)

三浦さんは25年もの間、統計調査員として活動してきた。若くして大津町に移り住んだ三浦さんが考える未来へ遺したいものとは—。

合志町（現合志市）出身の三浦さんは20歳のときに結婚。大津町真木に移り住んだ。結婚後、長男がすぐ生まれ、以来、母として3人の子どもを育ててきた。

統計調査の調査員を始めたきっかけは、兄からの紹介だった。初めて担当したのは昭和60年国勢調査。以後、調査員として多くの調査に貢献し、国勢調査や農林業センサスなど多くの調査で調査員表彰を受賞している。

しかしすべてがうまくいっていったわけではない。調査では苦労も多く、辛いこともたくさんあった。それでも一所懸命調査員をやった理由は「子どもや孫が暮らしやすい世の中にしたい」という思いだった。調査員をやっていると調査結果を利用したテレビや記事などがよく目につくようになる。調査結果が生かされるならば、調査員の仕事を頑張ることが大切なことだと知った。すぐに反映されることはないかも知れないけど、きっと良い世の中になることを信じて—。

20代の若い夫婦が子どもたちのために全力で走り続けた結果、子どもたちは大人になり、夫と2人になった。しかし夫とのドライブが趣味だという三浦さんは、今でも青春を謳歌している。

20歳から持っている子どもたちへの愛情があるからこそ、統計調査への努力があるのだろう。それは未来への遺産に他ならない。

### ついでの声

▼5年前、わたしは国勢調査の担当をしていました。そのときに気づいた「統計調査の大切さ」。それを知っていたのは調査員の皆さんでした。その5年前からの思いを今回の特集に込めてみました。取材を受けてくれた三浦さんと大村さんに感謝します。▼取材で感じることは、みんな多くの愛を抱えていること。その愛を感じて文章が書けないなんてことはありません。愛にふれると誰もが詩人になれる」プラトンの言葉が心に染みます。▼今月は久しぶりにイベントの記事をたくさん掲載することができました。しかしどうやっても体は一つしかありません。困ったときに助けてくれた仲間へ感謝、そして感謝しています。ありがとうございます！

(江口)